

2009 5月22日(金) 17時↓19時

京都大学人文科学研究所 4階大会議室

(バス停「京都大学農学部前」徒歩2分 / 「百万遍」東へ徒歩5分)

主催：京都大学人文科学研究所・人文学国際研究センター

共催：日本南アジア学会・関西地区研究会

問合せ：京都大学人文科学研究所総務掛

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 TEL 075-753-6904

ホームページ：http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/

ガウリ・ヴィシユワナータン氏講演会

オカルトの伝達

文学的モダニズムにおけるポスト宗教時代の宗教

講演 17時↓18時

※講演は英語で行われます。

ガウリ・ヴィシユワナータン (コロンビア大学教授)

ディスカッション 18時↓19時

三原 芳秋 (同志社大学言語文化教育研究センター)

藤倉 達郎 (京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科)

ヘント・デ・フリーズ (ジョンズ・ホプキンス大学教授)

◇司会

田辺 明生 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

◇コーディネーター 磯前 順一 (国際日本文化研究センター)

講演予告

本講演では、オカルティズムを、ポスト宗教的で、信仰と無信仰のあいだにあり、またオーソドックスな信心深い社会における諸約束事と無神論的で懐疑的で合理的な社会における正反対の衝動とのあいだにあるものとして描写する。

Gauri Viswanathan (ガウリ・ヴィシユワナータン)

氏の専攻は英文学・比較文学。コロンビア大学教授。教育・宗教・文化、19世紀のイギリスおよび植民地のカルチュラルスタディーズ、近代諸学問の歴史などについて幅広く出版している。主著には、Masks of Conquest: Literary Study and British Rule in India (Columbia, 1989; Oxford, 1998) や Outside the Fold: Conversion, Modernity, and Belief (Princeton, 1998) がある。Outside the Fold では米国比較文学会のハリー・レヴィン賞、米国近代言語学会のジェームス・ラッセル・ローウェル賞、アジア研究学会のアーナンダ・クーマラスワミー賞を受賞した。編著には、Power, Politics, and Culture: Interviews with Edward W. Said (Vintage, 2001) および ARIEL: A Review of English Literature (2000) "Institutionalizing English Studies: The Postcolonial / Postindependence Challenge" (特集号) がある。近代のオカルティズムについてであり、ポスト世俗主義時代にふさわしいオルタナティブな宗教史を書こうとしている。

